

2022年08月02日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【ドル/円の大変動を考察】

ドル/円が、大きく上昇した後で、大きく下落しています。

一般論として、その理由を考察します。

+++++

金利は、その国のインフレ率です。

金利が高いということは、その国のインフレ率が高く、その国の通貨価値は、いずれ下落することを意味しています。

たとえば、10%の金利が付くということは、100万円が、1年後に110万円になるということです。

2年後には121万円に、3年後には133.1万円になります
(複利計算をしています)。

お金は増えているのですが、インフレですから、物価も上昇しています。

つまり、こういった状態のときは、インフレが進んでいるということです。

インフレは、お金(通貨)の価値が下落することですから、その国の中では、その通貨価値は下落しています。

こういった通貨価値の変動は、日々のマーケット(外国為替市場)で、徐々に調整されればよいのですが、インフレ率ばかりがマーケットの変動要因ではありません。

インフレ率が高い、つまり、高金利であることが要因になって、キャリー・トレードが行われると、その高金利通貨は、「買い」の対象になります。

繰り返しますが、ある通貨が高金利であるということは、その通貨を発行している国がインフレであるということです。

ですから、いずれ、その通貨価値は下落する可能性があります。

そうであるにもかかわらず、高金利の通貨は、「低金利の通貨を売って、高金利の通貨を買う」というキャリー・トレードのターゲット（買いの対象）になっているのです。

キャリー・トレードが続いて、その規模が拡大増加している間は、インフレ（高金利）であっても、むしろ、その通貨の価値は上昇します。

現在のマーケットは変動相場制ですから、需給で価格（為替レート）が決まります。

キャリー・トレードによって、高金利通貨の需要が高まるので、価格が上昇するのです。

しかし、インフレが、通貨価値を下落させる可能性が消えることはありません。

需給による価格変動の陰に隠れて見えにくくなっているだけで、潜在的に存在し続けています。

むしろ、需給により、ゆがめられて、その潜在的な下落リスクは大きくなっているのです。

人は、世の中が変わらないことを前提に、さまざまな取引をしています。

しかし、日々の変化は小さくても、それは徐々に矛盾を溜め込み、次の大きな変化のエネルギーとして蓄積されていきます。

地球上の大陸プレートの移動は、1年ごとに数ミリから数センチ程度で、日々の変化は、人間には感知できないでしょう。

しかし、プレートは時々刻々と動いています。

プレートとプレートの圧力が一定のレベルにまで溜まると、プレートは瞬時に大きく動き、それまでに溜めたエネルギーを放出します。

突然の大地震となって修正を行うのです。

それは、表向きにはよくわからないし、目にも見えないでしょう。

火山の地底深くにマグマが溜まり、それが抑えきれなくなると、突然に噴火するのと同じことです。

マーケットも、矛盾がないわけではなく、不完全なシステム（制度）のもとで運用されています。

日々、少しずつ矛盾が溜まって、いずれ激変を起こします。

その激変するときこそが、マーケットの「クラッシュ」と呼べるのかもしれない。

++++
++++

(2022年08月02日東京時間14:05記述)